

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第 5 号を下記のとおり発表したの送付します。

令和 8 年度病虫害発生予報第 5 号

令和 8 年 7 月 30 日
岡 山 県

予 報 概 評

作 物 名	病 害 虫 名	発生時期	発 生 量
水 稻	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや多
	紋枯病	—	やや少
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	やや多
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	並
	トビイロウンカ	並	やや少
	イチモンジセセリ	並	並
	コブノメイガ	—	並
	カメムシ類	—	並
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや少
モ モ	モモハモグリガ	—	並
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	—	やや多
	べと病	—	並
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

作 物 名	病 害 虫 名	発生時期	発 生 量
キュウリ	べと病	—	並
	うどんこ病	—	やや少
	褐斑病	—	やや多
トマト	疫病	やや遅	やや少
	葉かび病	—	やや少
ダイコン	軟腐病	—	並
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや少
野菜共通	アブラムシ類	—	やや多
	ミナミキイロアザミウマ	—	やや多
	ハスモンヨトウ	—	やや少
キ ク	ハダニ類	—	やや多

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち（中生種、晩生種）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 7月21、22日の巡回調査によると、県南部地帯の発生ほ場率は21.4%で平年（38.5%）より低かった。

イ． 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 穂いもち（極早生種、早生種）

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア． 7月22、24日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生ほ場率は83.3%で平年（14.4%）より高く、中部地帯は17.1%で平年（41.9%）より低かった。

イ． 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． イネの茎数は、概ね平年並である。

イ． 7月21、22、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（14.3%）より低かった。

ウ． 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア．昨年多発生したほ場では伝染源が多いと考えられるので、ほ場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア． 7 月 21、22、24 日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

イ． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア．台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する場合があるため、豪雨により浸冠水したほ場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア． 7 月 21、22、24 日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生ほ場率は 15.7%で平年（4.2%）よりやや高かった。

イ． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件となる。

(6) ニカメイガ（第 2 世代幼虫）

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア．赤磐市のフェロモントラップにおいて、7 月 4 半旬までに誘殺は認められず、平年（0 頭）並であった。

イ． 7 月 21、22、24 日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア．赤磐市の予察灯における 7 月 1～4 半旬の飛来数は 8 頭で、平年（9.8 頭）並であった。

イ． 7 月 21、22、24 日の巡回調査によると、発生ほ場率は 30.3%で平年（34.3%）並であり、すくい取り（20 回振り）調査での成幼虫数は 10.5 頭で平年（19.9 頭）よりやや少なかった。

ウ． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並
発生量 やや少

予報の根拠

- ア．赤磐市の予察灯では7月1～4半旬の飛来を認めておらず、平年（0.9頭）よりやや少なかった。
- イ．7月21、22、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は0%で平年（0.6%）よりやや低かった。すくい取り（20回振り）調査では発生を認めておらず、発生ほ場率は平年（0.7%）より低かった。
- ウ．7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア．ほ場をよく観察し、要防除水準（成幼虫合計で株当たり10頭以上又は短翅型雌成虫で株当たり0.2頭以上）を超えるほ場では、直ちに防除を徹底する。
- イ．本虫はほ場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- ア．7月21、22、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は1.1%で平年（2.4%）よりやや低かった。
- イ．7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア．7月21、22、24日の巡回調査によると、発生ほ場率は4.5%で平年（5.2%）並であった。
- イ．7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア．赤磐市の予察灯における7月1～4半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は155頭で平年（408.3頭）より少なく、イネカメムシの誘殺数は11頭で過去4年間の平均（15.3頭）と同程度であった。また、真庭市の予察

灯における 7 月 1 ～ 4 半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は、26 頭で平年（79 頭）より少なかった。

イ． 7 月 22、24 日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20 回振り) では、アカスジカスミカメの発生量は 1 地点当たり 42.9 頭で平年（62.4 頭）よりやや少なかった。

ウ． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 県予察ほ場（赤磐市）のフェロモントラップにおける 7 月 1 ～ 4 半旬の誘殺数は 70 頭で、平年（278.3 頭）より少なかった。

イ． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア． 赤磐市のフェロモントラップにおける 7 月 1 ～ 4 半旬の誘殺数は 4 頭で、平年の 0.5 頭よりやや多かった。

イ． 7 月 21 日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

ウ． 7 月 23 日発表の 1 か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21日の巡回調査では平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21日の巡回調査では発生を認めず、平年(1.4%)並であった。

3 野 菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16日の県予察ほ場での発病葉率は46.1%で、平年(28.0%)より高かった。

イ. 7月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率は71.4%で平年(71.0%)並であった。

ウ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月16日の県予察ほ場での発病葉率は24.6%で、平年(21.1%)並であった。

イ. 7月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率は14.3%で平年(25.3%)より低かった。

ウ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月16日の県予察ほ場での発病葉率は62.5%で平年(24.0%)より高かった。

イ. 7月16、17日の巡回調査によると、発生ほ場率は71.4%で平年(33.8%)より高かった。

ウ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は

ほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月16、17日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(6.0%)並であった。

イ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月16、17日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(13.8%)より低かった。

イ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月16日の巡回調査によると、発生ほ場率は16.7%で平年(31.7%)よりやや低かった。

イ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、ダイコンでの発生ほ場率は0%で平年(17.5%)より低かった。

イ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察ほ場(赤磐市)の黄色水盤への7月1～4半旬の飛来数は248頭で平年(42.5頭)より多かった。

ウ. 7月23日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。